

みやぎ脱原発・風の会

2025 会員のつどい

日時：2025年3月9日（日）10時

会場：仙台市戦災復興記念館5階会議室

記念講演「原発の電気は本当に安いのか？」

～新エネルギー基本計画の欺瞞を撃つ！～

講師：明日香壽川氏（東北大学教授）

【次第】

1) 2024年風の会の活動報告、会計報告

資料 2024年県内の主な動き

2) 2025年風の会の活動方針について

3) 参加者の自己紹介と今後の抱負

みやぎ脱原発・風の会

〈連絡先〉〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-1-3

仙台市市民活動サポートセンター内LC No. 76

<http://miyagi-kazenokai.com/>

《郵便振替口座》 02220-3-49486

会費●3000円 購読会費●1500円／年

2024年 風の会 活動報告 (2023年活動方針に照らして)

- ① 女川原発2号機の2024年再稼働を阻止すべく、「みやぎアクション」「さようなら原発みやぎ実行委員会」による取組みなどに積極的にに関わり、県内外の団結を高め、金デモや集会などの県内世論作りに努めるとともに、引き続き宮城県や東北電力に市民の意見をぶつけていく。

→残念ながら女川原発2号機は再稼働してしまったが、私たちは3月23日1000人が結集した全国集会をはじめ、7月7日女川現地講演集会・デモ、8月25日シンポジウム、9月1日集会、11月2日集会、そして10.29~12.26の東北本店前行動とデモなど、仲間とともに行動し続けた。また、550回に達したみやぎ金曜デモには毎回参加。さらに、東北電力との交渉を2月9日、3月4日、8月30日、10月25日、12月13日にみやぎアクションのメンバーと、また11月18日には岩手の会のメンバーと行い、市民の疑問・意見を直接伝え回答させる場を作り続けてきた。宮城県にも「安全性検討会の設置」などを言い続けてきたが、村井県政は耳を傾けようとしなない。

一方、風の会単独で、6月3日、『有毒ガス防護』に関し、『検出・警報装置の設置』なしでの女川原発2号機再稼働は止めるべき」という内容の申し入れを宮城県・東北電力に、また9月20日、同様の申し入れを宮城県、女川町、石巻市、さらに規制委員会に行った。初めての風の会単独の申し入れを実現することで、この問題が決して終わっていないことを広く知らしめた。

- ② 能登半島地震で露呈した、原発の地震に対する脆弱性、複合災害時の避難の困難を焦点に原発の危険性を改めて訴える

→3.3風の会のつどいでの上澤さんの講演、また8.25シンポジウムでの北野さん・上岡さんのお話で、地震に対する原発の脆弱性とリわけ複合災害時の避難の困難性は明らかにされ、女川原発再稼働の際にもマスコミ報道などで大きくクローズアップされた。再稼働されたからといってこの問題が消えてなくなるわけではなく、今後も追及し続けなければならない。

- ③ 近く控訴審の判決が出る事が予想される女川原発再稼働差し止め裁判の勝利に向け全面的に支援し、裁判の成果を県内の運動に広く還元する。

→11.27判決は残念ながら敗訴となったが、それでも避難計画が不備であれば差し止めは可能だとする判断を得た成果があった。風の会としては裁判資料をHPにアップするとともに、メンバーが傍聴や集会に参加・協力、『鳴り砂』に記事化するなどして支えてきた。

- ④ 県内にとどまらず、また県外とも人的なつながりを広げていく。

→「再稼働阻止全国ネットワーク」のメンバーとは3.24全国交流会を通じて交流を深め、また岩手の会の東北電力との交渉にオブザーバー参加するといったこれまでになかった取り組みを行った。

- ⑤ 「福島を忘れない」ことを意識した取組を行う。

→「こども脱被ばく裁判」にはメンバーのHさんが中心になって取り組んできた。また津島の裁判にも傍聴などで関わってきたが、裁判自体が仙台高裁・地裁では減っていることと、一昨年のような「追い出し裁判」や「ピースサイクル」などの企画がなかったこと、女川原発再稼働が差し迫っていたことで、目立った取り組みは行ってこなかった。

- ⑥ 『鳴り砂』の定期発行やHPでの発信を通じ、情報を発信しつづけていく。

→2024年も年6回体制をキープし、それなりに一定数の読者は確保していると思われる。

- ⑦ 公開学習会を年1回、できれば2回開く。

→2024年は風の会のつどいの上澤さんの講演だけで、公開学習会は行えなかった。再稼働を目前に集会・シンポジウム・交渉が続いたので、致し方なかったと思われる。

- ⑧ 「脱原発」にとどまらず、再生可能エネルギーに取り組んでいる人たちなどとの交流や、「若い」人との交流も実現したい。→2024年はこの課題はなかなか進まなかった。

風の会 2024 年会計報告

(2024年1月1日～12月31日)

●繰越金		599,116円	(前年 643,710円)
●収入	会費	285,000円	(76名) (前年 233,410円 70名)
	賛同会費	66,000円	(47名) (前年 64,000円 45名)
	カンパ	22,333円	(8名) (前年 70,890円 5名)
	学習会カンパ	22,000円	(前年 7,000円)
	その他	5,000円	(前年 55,936円)
	合計	400,333円	(前年 431,236円)
●支出	印刷費	19,920円	(前年 30,920円)
	用紙代	38,174円	(前年 47,211円)
	通信費	183,688円	(前年 204,834円)
	活動費	122,610円	(前年 104,144円)
	会場費	25,970円	(前年 34,640円)
	ロッカー代	15,720円	(前年 15,720円)
	コピー代	9,500円	(前年 5,745円)
	その他	25,357円	(前年 32,616円)
	合計	440,939円	(前年 475,830円)

●残金・繰越金 558,510円 2025年へ

【参考】主な活動費	風の会HP更新料	66,000円
	3.3会員のつどい	46,000円
	女川・石巻申入れ	5,610円
	阻止ネット会費	5,000円

2025年1月

会計 須田 剛

会計監査 宇根岡實

2025年 風の会 活動方針（案）

- ① 女川原発2号機は再稼働されたが、問題は何一つ解決されていない。新エネルギー基本計画に顕著にみられる「原発回帰」政策に反対し、「みやぎアクション」「さようなら原発みやぎ実行委員会」による取組みや「みやぎ金曜デモ」を支え、県民の世論づくりに関わっていく。
※「3.9つどい」での明日香先生の講演内容にみられるように、政府は「原発の低減」から「積極的な活用」に舵を切り、そのため個別政策を進めようとしている。それらに一つ一つ対峙しつつ、原発のもつ問題性（事故の巨大さ・コスト面・核のゴミなど）を訴えつづけていく。3.23集会を皮切りに今年も集会・デモなどの活動を続けていきたい。
- ② 使用済み核燃料を女川に留め置く計画の「乾式貯蔵計画」に反対し、現地のみなさんとともに女川原発の稼働を止める闘いを進める
※東北電力自らがいうように、この乾式貯蔵計画は「2号機の稼働を今後も可能にするため」のものであり、認めることはできない。核のゴミ問題は様々なレベルがあるが、推進勢力のアキレス腱であることは間違いなく、まずは女川の世論と結びついた運動を進めていきたい。
- ③ 女川3号機の再稼働に向けた動きを注視し、改めて「プルサーマル発電」の問題性を訴えていく
※東北電力は「2年間はボーリング調査」だとして再稼働申請はその後だとしているが、もし稼働すればプルサーマル発電になる3号機には、2号機とはまた違った危険性がある。そもそも3号機が3.11でどれほどの損害をうけ再稼働に必要な補修がどれほどなのかが明らかではない。この動きにも注視していく必要がある。
- ④ 能登半島地震や、再稼働差止め裁判で明らかになった、原発の地震に対する脆弱性、複合災害時の避難の困難を焦点に原発の危険性を改めて訴える
※差止め裁判の原告は、今後は「女川原発の避難計画を考える会」として活動を続けていくとしており、この会と連帯しつつ、全国で頻発する巨大地震に対する原発の問題性・避難計画の問題性も訴えていく。
- ⑤ 「福島を忘れない」ことを意識した取組を行う。
※震災から14年となり政府などの「福島事故はもう終わった」とのキャンペーンが強まることに抗して、今もつづく避難者・被害者の苦悩に思いをはせ、福島を忘れない取り組みを仲間とともにやっていく。
- ⑥ 『鳴り砂』の定期発行やHPでの発信を通じ、情報を発信しつづけていく。
※ヤマトや郵便の値上げで送料が高騰するなか、エネルギーがけっこうかかるものの、まとまった宮城の運動の動きの紹介を県内外に届ける媒体となっている『鳴り砂』の発行体制を維持していく。随時HP閲覧への移行もすすめていきたい。
- ⑦ 公開学習会を年1回開く。
※3.9つどいに明日香先生の講演が実現できたので、あと1回年内に独自企画を行いたい。
- ⑧ 県外の人との交流、また再生可能エネルギーに取り組んでいる人たち・地球温暖化問題に取り組んでいる人たちとの交流や、新規メンバーの獲得も実現したい。
※どうしても既存のメンバーで終始することが多く広がり欠けているので、やるべきことはやりつつ、さらにウィングを広げていくことを常に念頭において活動していきたい

- 【脱原発みやぎ金曜デモ】1/5 第510回、元鍛冶丁公園、20名の市民が参加。「シュプレヒコール」を行なわない、録音したメッセージを流す、距離をとる、マスク着用等の感染症対策を実施。【反戦】脱原発のみをシングルイシューとしてきた脱原発みやぎ金曜デモですが、戦争による原発災害の危機が現実のものとなったのを踏まえ、ウクライナに対する戦争を直ちに停止せよ、と訴えます。～7/19 第535回、郡山金曜行動の仲間2名が参加、「原発いらない、いのちが大事の歌」などの演奏を披露。7/26～代表西さんの体調不良と猛暑も考慮し8月は夏休みに…。11/29 第549回、途中ガザ戦争反対のスタンディングの方々ともエールを交換し、女川原発2号機の12月26日営業運転を止めよう！と訴え。～12/20 第552回。12/22、「みやぎ金曜デモの会」総会、会計報告、今後の活動と体制を確認、仙台市市民活動サポートセンター研修室5、21名参加。
- 【脱原発金曜屋スタンディング】脱原発金曜スタンディングの会、1/5、仙台市フォーラス前、5名参加。中止なく～12/27まで、毎週4～11名参加。

【2024年1月】

- 1日(月) 16時10分頃、石川県志賀町で最大震度7の能登半島地震(M7.6)が発生。最大加速度2826ガルを記録。漁港で津波が陸上を遡上した高さは推定約4.2m。震源に近い輪島市で最大約4mの地表の隆起を観測。北陸電力志賀原発(停止中)では、変圧器で2万m近い絶縁油漏れ事故が発生し電気系統の一部が使用不能、約3mの津波が到達、周辺のモニタリングポストの一部が測定不能。1号機地下で震度5強を観測。
- 15日(月) 「原発避難者追出し裁判」控訴審、仙台高裁第3民事部瀬戸口裁判長、不当判決の主文を読み上げただけで退出。避難者住宅追出しを許さない会等支援者約40名、裁判所前で抗議の声。上告の方針。
- 17日(水) 福島原発事故避難者山形訴訟控訴審判決期日、101号法廷。福島県から山形県に避難した人やその家族669人が、国と東電に約20億4600万円の損害賠償を求めた集団訴訟、仙台高裁第1民事部石栗正子裁判長、国の責任を認めず、東電のみに賠償を命ずる判決。
東北電力ネットワーク、4月から発電事業者にも「託送料金」を負担させる託送供給等約款、国が認可と発表。FIT終了の太陽光発電を持つ家庭も「託送料課金制度」が適用に。
- 18日(木) きらきら発電、出力抑制誤作動問題について、東北電力記者クラブで記者会見。
- 19日(金) 生活協同組合あいコープみやぎ、県に「安定ヨウ素剤」の事前配布を求める要望書提出。
- 20日(土) 県、令和5年度原子力防災訓練。原子力防災指針の改訂、12月26日の女川地域原子力防災協議会(第3回)の開催に基づく訓練、全くの非現実的な計画。マスコミ報道では「アプリの効果」に問題すり替え。
- 21日(日) みやぎアクション、オンライン会議。13名参加。2/18、3/17、4/14、5/19、6/9、7/13、8/12、9/14、10/6、11/9、12/7。
- 22日(月) 女川原発の再稼働を許さない!みやぎアクションと原発問題住民運動宮城県連絡センター、村井県知事宛に「能登半島地震が突きつけた災害対策等の課題を直視して、女川原発2号機再稼働への地元同意を取り消し、県独自に安全性を検討する場の設置、避難計画の再検討を求める要望書」提出。10名参加。
- 27日(土) 女川原発UPZ住民の会、学習会「女川原発 再稼働して本当に大丈夫なの？」講師：武内佳之さん(元大熊町役場職員)、涌谷公民館交流ホール。約110名参加。
- 29日(月) UPZ住民の会、首長の会会長渥美東松島市長と災害時避難計画見直し申入れで交渉。10名参加。
- 30日(火) 脱原発仙台市民会議等12団体、仙台市交渉、市議含め15名参加。12/22「原発防災計画に関する要望書」と1/12「原発防災計画に関する補足要望書(各論)」に危機管理局防災・減災部防災計画課が回答。
県警、宮城海上保安部、陸自東北方面総監部、女川原子力規制事務所、東北電力、女川原発の警備体制を協議する連絡会議を県警本部で開催(2回目)。非公開、10人出席。
- 31日(水) 女川原発再稼働差止訴訟控訴審第2回口頭弁論期日、仙台高裁第3民事部101号法廷、60名参加。被控訴人東北電力、反論提出を引き延ばし。4/17第3回。7/17第4回、裁判体に変更(倉澤守春新裁判長)したことで「更新弁論」手続き、「結審」。90名参加。報告会&記者会見、仙台弁護士会館301会議室。

【2月】

- 6日(火) 脱原発をめざす宮城県議の会「勉強会」、元福井地裁裁判長樋口英明氏が講演。20名参加。
- 9日(金) みやぎアクションと県連絡センター、1.22要望書に対し県が回答、住民を守るという本気さはまったく見られない回答。県議会棟1階第一応接室、8名参加、県会議員4名も同席。記者会見。
- 14日(水) 女性ネットみやぎ、「岸田政権の新・原発推進政策の撤回を求める全国署名」街頭署名行動、平和

ビル前。5/8、6/12、7/10、8/21、9/11、9/18、10/9。

「ふるさとを返せ」福島原発避難者訴訟・第2陣山木屋訴訟控訴審 判決、仙台高裁101号法廷。第3民事部瀬戸口壮夫裁判長、原告299人に対して賠償総額を5億円増額し10億9891万円の支払いを命じた。判決は、政府の地震予測「長期評価」に基づいて、東京電力が08年に高さ最大15・7メートルの津波を試算したのに、対策を講じないまま津波の襲来に至った対応について「極めて遺憾」と非難。28日、東電、上告を断念。

18日(日) NPO法人「スパッと鳴子温泉自然エネルギー」、東北大国際放射光イノベーション・スマート研究センター村松淳司教授、鳴子地区の地熱エネルギーの可能性を講演。鳴子公民館、約20名参加。

21日(水) 原発問題住民運動宮城県連絡センター、「岸田政権の新・原発推進政策の撤回を求める全国署名」街頭署名行動、平和ビル前。5/15、6/19。

22日(木) 三陸の海を放射能から守る岩手の会等6団体、東北電力へ「1号機天井クレーンに係る質問」「原発再稼働に係る質問」「能登半島大地震を受け、原発再稼働の見直し等に係る質問」を1月16日にメールで提出、回答を受け交渉。東北電力本店1階会議室、岩手4名、宮城6名参加。記者会見。

25日(日) 日本基督教団東北教区放射能問題支援対策室いずみ、「第91回甲状腺エコー検査 in いしのまき〜じょっこ検査」、34名が受診。3/16、3/30、6/22、7/28、9/29、10/20、11/30、12/14〜15第99回。

26日(月) 東北電力、女川原発敷地内に2号機の使用済み核燃料を保管する乾式貯蔵施設を設置する方針を発表。27日、県と女川町、石巻市に安全協定に基づく事前協議申し入れ。28日、原子力規制委員会に「原子炉設置変更許可」申請。設置費用144億円、建屋2棟を新設予定。

【3月】

3日(日) 「風の会2024会員のつどい」記念講演「能登半島地震と志賀原発の現状〜女川原発の再稼働を問う」講師：上澤千尋さん(原子力資料情報室)、仙台市戦災復興記念館4F第4会議室、ZOOM合わせ60名参加。

脱原発金曜スタンディングの会、記録映画「かくれキニスタン〜声をあげる10年目の福島」上映会&関久雄監督トーク、仙台市戦災復興記念館4F研修室、46名参加。

4日(月) みやぎアクションと県連絡センター、2/9「女川原発2号機再稼働の中止を求める申入書」「女川原発の再稼働で電気代が安くなるという発言に関わる質問書」への回答を受け、東北電力交渉。8名参加。

8日(金) 県、UPZの住民の90%が避難するまで最長41時間かかるとする試算結果を公表。

10日(日) 県保険医協会、公開シンポジウム「アルプス“処理水”海洋放出を中止させよう〜学者・生産者・消費者の視点から」片山知史氏(東北大学大学院農学研究科教授)、廣澤一浩氏(仙台水産)、河野雪子氏(みやぎ生協)、〈コーディネータ〉水戸部秀利氏(公害環境対策部部員)、研修ルーム、Web含め20名参加。

11日(月) ふるさとを返せ！津島原発訴訟控訴審第8回口頭弁論、仙台高裁第1民事部101号法廷。石栗正子裁判長が2月に退官、新裁判体・石垣陽介裁判長での弁論更新。6/18第9回、右陪席の裁判官も変わり弁論更新。9/10第10回、長谷川公一氏の意見書を基に、白井弁護士が第26準備書面「『作為』による国の責任と米国内NRCのB. 5. b」を意見陳述。約100名参加、傍聴席は満席。全国から集めた、10万358通の公正判決を求める署名を裁判所へ提出。10/18現地進行協議(裁判官現地視察)。12/4第11回、原告、弁護団、支援等約90名参加、傍聴席は満席。報告集会、仙台市戦災復興記念館4階第一会議室。

山形・幸せの脱原発ウォーキング、さようなら原発米沢、さようなら原発酒田・飽海の会、東北電力と山形県に、女川原発2号機の再稼働中止を求める要望書を提出。

16日(土) 実行委、映画『原発を止めた裁判官〜そして原発をとめる農家たち』石巻上映会、マルホンまきあーとテラス小ホール、330名参加。〈関連企画〉写真展「3.11津波直後の石巻・女川原発周辺」、13〜20日。

「いのちの光3.15フクシマ」実行委、第11回いのちの光3.15フクシマ「フクシマが背負ってきたもの伝えつづけるもの」講演：高瀬つぎ子氏(福島在住カトリック信者)、カトリック元寺小路教会大聖堂。50名参加。

東北電力ネットワーク、再生可能エネルギー発電事業者を対象に「出力制御」を実施。再エネ出力578万kWで最大35万kW(14時30分から15時30分)を一時停止。30日、31日(23年度14回)。

17日(日) 『河北新報』、女川原発2号機再稼働に、反対43.9%、賛成41.4%と、昨年と逆転するインターネットによる意識調査結果を公表。

18日(月) 「ふるさと喪失・宮城」訴訟控訴審 判決、仙台高裁第3民事部瀬戸口裁判長、東電の抗弁を棄却、原告(34所帯83名)損害賠償額、一審1億4458万円から約1359万円増額、勝訴。しかし、6・17最高裁判決に追従、国の責任を認めず、思考停止した判決。最高裁へ上告。

23日(土) さようなら原発みやぎ実行委、「ストップ！女川原発再稼働 さようなら原発全国集会 in 宮城」、雨の中、全国各地から1000人を超える人々が集い、協賛団体240団体。仙台市勾当台公園市民広場、共催：さようなら原発1000万人アクション。アピール行進。翌24日、「女川バスツアー」9名参加(案内篠原さん)。

再稼働阻止全国ネットワーク第29回全国相談会、仙台市戦災復興記念館会議室、オンライン含め28名参加。
28日(木) あいこープみやぎ脱原発エネルギーシフト委員会、「こどもに原発事故を伝える会」原発事故の絵本読み聞かせ、写真家飛田晋秀さんのお話、日立システムズホール3階エッグホール。

30日(土) みやぎ地域市民電力連絡会、学習講演会「再エネと市民電力の未来」講師：飯田哲也氏(NPO法人環境エネルギー政策研究所所長)、仙台市シルバーセンター第2研修室。会場43名、オンライン21名参加。

【4月】

1日(月) 東北電力ネットワーク、再エネ発電事業者を対象に「出力制御」を実施。再エネ出力697万kWで最大224万kW(12時30分から13時)を一時停止。2日、5日、7日、10日、11日、13日、14日、20日、26日、28日、29日、5/2日、3日、4日、5日、10日、11日、18日、25日、26日、6/8日(2024年度22回目)。

15日(月) 美里町、営農型太陽光発電設備整備を目指し、アグリカーボンニュートラル推進協議会(会長相沢清一町長)設立総会、美里グリーンベース。約25人出席。

21日(日) 女性ネットワークみやぎ、止めよう!女川原発再稼働 落合恵子さん講演会「いま、ここ、あなた(わたし)から」、仙台弁護士会館4階ホール。会場に230名、オンラインで24名が参加。

23日(火) 規制委員会、女川原発2号機の使用済み核燃料の乾式貯蔵施設についての新規制基準適合性審査会合の初会合。東北電力、敷地南側の海拔35~37m地点に、二つの建屋を整備する方針を説明。6/25(第1261回)、東北電力、設計方針を説明。

30日(火) 脱原発東北電力株主の会、東北電力に株主193名・309,000株で「女川原発再稼働を行わない」等の5議案の株主提案(29年連続)を提出し、県庁で記者会見。3名参加。

女川原発再稼働を考える講演会第1回実行委員会、女川町まちなか交流館会議室、オンライン含め15名参加。5/18、6/8、6/28、7/18第5回。6/8女川町内全戸チラシ配布(1900戸)、19名参加。

【5月】

8日(水) 県、登米市で4月22日に採取された野生コシアブラから150Bq/kgの放射性セシウムを検出したと発表。5/15、栗原市で5月1日に採取された野生タケノコから110~200Bq/kg。5/29、七ヶ宿町で20日に採取されたコシアブラ、丸森町(旧耕野村、旧丸森町、旧小斎村、旧筆甫村、旧大内村以外の区域)で9、11、22日に採取された野生タケノコ10検体から110~190Bq/kg。6/12、丸森町で採取された野生ゼンマイ4体から110~480Bq/kg。10/2、気仙沼市上東側で9月18日に捕獲されたニホンジカから130Bq/kg。12/18、大崎市岩出山葛岡宮地や同市岩出山葛岡岩乃沢、同市鳴子温泉前森、角田市島田、亘理町宇卑下入で11月23日~12月10日に捕獲された野生イノシシ8頭から111~128Bq/kgの放射性セシウムを検出。

10日(金) 風の会Sさん、宮城労働局長から「石巻労働基準監督署が令和3年10月7日に東北電力女川原子力発電所に交付した指導票(控)」の開示を勝取る。2021.7.12女川原発硫化水素流出・労災事故「指導票」文書『不開示決定』に対し、厚生労働大臣へ審査請求、総務省「情報公開・個人情報保護審査会」に諮問され、今年3/8付で、実質的に『完全勝利』の「答申書」が発出。4/26付「原処分は、これを取り消す。」という厚労大臣の「裁決書」、5/7付で宮城労働局長から「行政文書開示決定書」が届き、10日、「申出書」を提出。記載内容は、「答申書」の判断通り、提出期限日、受領者職氏名、印影等が墨塗で一部不開示。

12日(日) 原発問題住民運動宮城県連絡センター年次総会・記念講演「能登半島地震の警告」講師：立石雅昭・新潟大学名誉教授(地質学)、仙台市戦災復興記念館5階会議室。66名参加。

14日(火) 白萩の会古川支部、学習会「女川原発を再稼働して本当に大丈夫」講師：高野博さん(元女川町議)、美里町駅東地域交流センター2F大会議室。

16日(木) 泉病院友の会環境委員会、アルプス処理水(汚染水)海洋放出問題学習会、話題提供：広幡文氏、南中山市民センター第2会議室。

25日(土) 岩手の会など、女川原発視察バスツアー、意見交換会。34名参加。

27日(月) 東北電力、女川原発2号機の「安全対策工事」が完了したと発表。7月核燃料装荷、9月再稼働、10月営業運転開始を予定。6月3日、「再稼働工程の概要」を公表。

29日(水) 全国再エネ問題連絡会(兵庫県)、仙台市太白区秋保町に計画される太陽光パネル工場建設構想反対集会、秋保市民センター、約80人参加。

30日(木) みやぎアクション、県連絡センター、さようなら原発みやぎ実行委3団体、「女川原発2号機の安全対策工事完了の発表を受けて(コメント)」の抗議声明を発表。

【6月】

3日(月) 風の会、村井県知事宛に要望書『法の求める「検出・警報装置の設置」なしでの女川原発2号機再稼働に反対すべきであり、東北電力が約した「有毒ガス防護・再発防止策」の“完全実施”を求めるべきです』、

東北電力に申入書『「有毒ガス防護」に関し、法の求める「検出・警報装置の設置」なしでの女川原発2号機再稼働は止めるべきです』を提出、県庁記者室で記者会見。4名参加。7月10日、県はメールで回答。東北電力は7月9日付け文書で「木で鼻をくくった」ような回答。12日、公開質問状へ口頭で回答。

- 5日(水) 規制委員会、女川原発2号機に新設する三つ目の直流電源設備(蓄電池)設置などの「原子炉設置変更」を許可。7/5、県と石巻市、女川町、同じく了解すると東北電力に回答。工事終了予定2026年12月。
- 11日(火) 山形・幸せの脱原発ウオーキング等3団体、吉村山形県知事に『女川原発2号機再稼働中止等に関する再々度の要望について』、山形県企業管理者に『東北電力株主総会「脱原発を求める株主」提案への要望と質問について』を提出。
- 12日(水) 東北電力、女川原発2号機で原子炉建屋の空調点検中に「非常用ガス処理系」が計画外に作動する事故があったと発表。21日、原因と対策を公表。
- 13日(木) 脱原発仙台市民会議等10団体、郡和子仙台市長宛に「東北電力株主総会において、仙台市が東北電力の株主として脱原発東北電力株主の会の株主提案議案に賛同し、女川原発の再稼働に反対することを要望する」要望書を提出。石神町内会(仙台秋保町)、「要望書及び質問状」を提出。10名参加。
- 16日(日) 脱原発金曜スタンディングの会、女川現地スタディツアー、講師:篠原弘典さん、阿部美紀子さん。35名参加。
- 17日(月) みやぎアクション等55団体、東北電力へ『女川原発2号機の再稼働および乾式貯蔵施設の設置などに関わる質問書』、村井知事宛要請書『地元同意を撤回して再稼働を中止させること』を提出、14名参加。
- 21日(金) 丸森町筆甫地区振興連絡協議会、住民393人が1人8万円増額の追加賠償請求、総額3168万円の支払を東電に求める裁判外紛争解決手続き(ADR)を原子力損害賠償紛争解決センターに申立て。2回目。
- 26日(水) 東北電力第100回定時株主総会、東北電力本店1階大会議室。2時間16分。株主の会7名参加。参加株主は205名(昨年は185名)、株主限定でネットライブ中継。
- 27日(木) 東北電力、女川原発2号機の30年超え運転の継続に必要な「長期施設管理計画認可申請書」を規制委に提出。
- 29日(土) みやぎ地域市民電力連絡会、古川くりの木保育園で年長児の児童・父兄を対象に「水力発電ミニ体験学習会」を開催。50名参加。

【7月】

- 1日(月) 脱原発をめざす県議の会「勉強会」、多々良さんが「能登半島地震を踏まえた女川原発再稼働の問題点」、中嶋さんが「乾式貯蔵施設設置の問題点」についてレク。県議17名(内女性8名)と市民等9名参加。
- 5日(金) 加美町議会再生可能エネルギーに関する特別委員会、「やくらいゴルフ倶楽部」の土地・建物転売によるメガソーラー建設に反対する決議を全会一致で採択。8日、石山敬貴町長、建設反対を表明。
- 7日(日) 女川講演会実行委 共催: さようなら原発みやぎ実行委員会、女川原発再稼働を考える女川現地講演集会「原発ゼロで生きる方法」講師: 青木美希さん(「なぜ日本は原発を止められないのか?」著者)、女川町生涯学習センターホール。サテライト大原集会所含め550名、他各地オンラインで80名が視聴。町内パレードに350名参加。26年ぶり、震災後の女川町内を女川原発再稼働反対とコールし練り歩いた。交流会、まちなか交流館会議室、31名参加。翌日、原発現地視察、青木さんや韓国の方10名参加。
- 8日(月) 東北電力、女川町の全戸と石巻市の一部(旧牡鹿町)の世帯約3700戸を対象に、対面での「こんにちは訪問」を開始。8月9日まで。1994年から実施、今回で46回目。
- 9日(火) 東北電力、住民向け説明懇談会を県漁協寄磯前網支所で開催。住民30名参加。重大事故時の避難や温排水の影響を懸念する声、乾式貯蔵施設について使用済核燃料の搬出時期があいまいと批判があった。
- 11日(木) 脱原発仙台市民会議等10団体、要望書と質問書への回答および女川原発再稼働ならびに避難計画等について、仙台市と再交渉。本庁舎2階第二会議室。仙台市議1名を含む16名参加。
- 12日(金) みやぎアクション等55団体、『女川原発2号機再稼働および乾式貯蔵施設設置等の質問書』に東北電力が回答、質疑。13名参加。県庁記者室で記者会見。
- 18日(木) 一般社団法人東松島みらいとし機構(HOPE)、家庭向け電力供給を9月から始めると発表。
- 19日(金) 脱原発金曜スタンディングの会、福島郡山金曜行動交流会。2名+9名参加。
- 20日(土)~21日(日) 大MAGROCK/大間原発反対現地集会実行委、大MAGROCK VOL.16 第16回大間原発反対現地集会、大間原発に反対する地主の会・所有地。延べ340名、宮城から7名参加。
- 22日(月) みやぎアクション等3団体、県交渉。県回答は一言で言えば「ゼロ回答」、あまりにも酷い回答に、「乾式貯蔵施設設置に関する説明会開催を求める再度の要請」を提出。11名参加。記者会見でコメント発表。
- 23日(火) 宮城県、福島原発「汚染水」海洋放出損害賠償請求に関する説明会、県石巻合同庁舎。水産事業者

等8人参加。8/8 気仙沼合同庁舎、8/23 仙台合同庁舎でも。

【8月】

- 1日(木) 葉葉の太陽光発電を考える会、石山敬貴加美町長に大規模太陽光発電所(メガソーラー)建設計画の白紙撤回を求める署名簿3204人分を提出。
- 2日(金) 脱原発東北電力株主の会6名、東北電力の「説明の場」で、事前質問書(100+16項目)への1問毎の回答を受け、原子力部課長等25名と質疑。東北電力本店会議室。
- 3日(土) 登米上映実行委、映画『原発を止めた裁判官～そして原発をとめる農家たち』上映会、中田農村環境改善センター。127名参加。
- 5日(月) 放射線被ばくを学習する会、富山大学科学コミュニケーション研究室、オンライン被ばく学習会「女川原発を再稼働するな!」講演:「女川原発再稼働の危険性」多々良哲さん(みやぎアクション)、「避難計画いいかげん!事故があっても逃げられない」日野正美さん(女川原発再稼働差止訴訟原告団)。
- 8日(木) 東北電力、女川2号機「大規模損壊訓練」(1日の予定)で屋外作業していた電力社員と協力会社従業員2人の計3人が、午後、病院へ搬送され、熱中症、脱水症と診断され、発電所の訓練責任者の判断で、「大規模損壊訓練」を中断。15日、追加の熱中症対策を行い残りの訓練を再開。
- 13日(火) 東北電力、7月11日、女川3号機の原子炉補機冷却海水系の点検中に、原子炉補機冷却海水ポンプ(A)吐出弁を手動操作から電動駆動に切り替え、全開にする操作を行ったところ、弁が動作しない事故が発生。クラッチ機構の部品の一部が折損、発さびに伴う「クラッチ機構の動作不良」が原因、と発表。
- 21日(水) 東北電力、2024年度第1四半期の原子力規制検査の評価結果を公表。「指摘事項」、重要度「緑」。大規模損壊訓練前の規制庁による現場確認で、アクセスルート近傍の倉庫などの仮設建築物について、地震で倒壊した場合の影響評価を行っていなかったことが指摘され、7月24日までに3棟全て撤去。
- 23日(金) 東松島、登米、涌谷、美里、南三陸のUPZ5市町の首長ら、女川2号機再稼働時に国から立地自治体が受取る交付金を巡り、交付対象とするよう求める要望書を県に提出。
- 25日(日) さようなら原発みやぎ実行委、女川原発再稼働を問うシンポジウム～能登半島地震が突きつけた課題「原発複合災害」を考える～、「能登半島地震と志賀原発で起きたこと」北野進氏(「志賀原発を廃炉に!」訴訟原告団長)、「原子力防災の虚構」上岡直見氏(環境経済研究所代表)、せんだいメディアテーク1階オープンスクエア。200名+ZOOM25名参加。
- 30日(金) みやぎアクション、東北電力と面談、「大規模損壊訓練への質問」の回答をうけ質疑。本店会議室、5名参加。
- 31日(土) 女川から未来をひらく夏の文化祭2024、女川町まちなか交流館。竹浦獅子振りや江島法印神楽等の郷土芸能、写真展「原発のまち50年のかお」。約200名参加。実行委、共催:女川から未来を考える会。

【9月】

- 1日(日) さようなら原発みやぎ実行委、STOP!女川原発再稼働宮城県民集会、あいさつ:多々良哲さん、ゲストスピーカー:今野寿美雄さん、発言:女川現地講演集会実行委高野博さん、女川原発再稼働差止訴訟原告長沼利枝さん、集会決議入島とよみさん。仙台市元鍛冶丁公園、市内アピール行進。350名参加。
- 3日(火) 東北電力、女川2号機の「燃料装荷」作業を開始。燃料集合体560体(新燃料208体+照射済み燃料352体)を、24時間体制で専用クレーンの燃料交換機で移動させ炉心に収める。9日終了。
- 4日(水) みやぎアクション、「乾式貯蔵施設設置に関する説明会開催を求める再度の要請」への県回答をうけ原子力安全対策課長と質疑。自治会館202会議室、13名参加。
- 8日(日) 「3.11かたつむりの会」、お話し会『小児科医きもと先生の福島のあとき』木本圭一さん(日本小児科学会専門医)、岩沼市JOCAジョカ東北(亀塚温泉)1階和室、20名弱参加。
- 13日(金) 東北電力、女川2号機で「非常用ガス処理系」が計画外に作動する事故が発生と発表。2021年7月、今年6月にも同様の事故。9/19事故原因は、「ルールが不明確で、保修部門の教育も不十分だった」と説明。
- 14日(土) 放射能から子どもたちを守る栗原ネットワーク『学習交流会』79、栗原市市民活動支援センター多目的室。
- 20日(金) 風の会、規制委員会(女川原子力規制事務所)と女川町・石巻市・宮城県に、「毒ガス防護」で申入れ行動。「石巻かほく」「河北新報」「石巻日日」が報道。6名参加。
東北電力、女川2号機の原子炉建屋地下1階の放射線管理区域で、制御棒を動かす水圧系統の6つの弁の軸封部から計約4%の水が漏れいする事故が発生と発表。
- 22日(日) 脱原発をめざす首長会議、石巻市かほくホールで学習会。現地報告:多々良哲氏(みやぎアクション)、特別報告:三浦一敏県議(県議の会副会長)。30名参加。記者会見、緊急声明「不安な避難計画では女川

原発2号機は停止したままに」を公表。翌日、女川原発を視察。

28日(土) みやぎアクション、「防潮堤の安全性の問題について」ZOOM学習会、講師：(株)鶴巻技術士事務所鶴巻広一氏(技術士、建設部門、総合技術監理部門)。12名参加。

30日(月) みやぎアクションと県連絡センター、「女川原発に関わる広報の誤りの訂正と、乾式貯蔵施設の設置計画に関する住民説明会の開催を求める要請書」と質問書を東北電力に提出。村井知事宛て「乾式貯蔵施設の設置計画に関する住民説明会の開催をあらためて求める要請書」を提出。記者会見。6名参加。

【10月】

5日(土) 岩手の会等3団体、3.11時の女川原発での20 μ Svの測定は福島原発事故由来ではなく、女川原発由来ではないかと、東北電力にメールで「東日本大地震時女川原発のMPの線量急上昇他に係る質問書」送付。

11/18、質問書に対する口頭回答で東北電力と面談。疑問は解消せず！記者会見。岩手3名+風の会2名参加。

10日(火) 仙台市消防局、4月の「西仙台ゴルフ場メガソーラー発電所」火災、「パワーコンディショナー」から出火したとする調査結果を発表。

12日(土) 脱原発金曜スタンディングの会、映画『我が友原子力～放射能の世紀』上映会、2、3回目上映後に渡辺謙一監督のトーク、仙台市戦災復興記念館4階研修室。約120名参加。

14日(月・祝) あいコープみやぎ、安定ヨウ素剤配布会、名取市下増田公民館研修室1,2。

18日(金) みやぎアクション等2団体、9/30「要請書」への回答書を受け取り原対課交渉。9名参加。

20日(日) NPOきらきら発電、オンライン学習会「福島事故避難生活者の今～岡山からの報告」講師：服部育代さん(一般社団法人ほっと岡山代表理事)。参加が11名と少なかったが有意義な学習会に。

23日(水) 山形・幸せの脱原発ウオーキング等3団体、東北電力に『女川原発再稼働の中止要望と質問について』、吉村山形県知事に『女川原発2号機の再稼働に関する要望について』を提出。

25日(金) みやぎアクション等2団体、9/30東北電力宛要請書・質問書への口頭回答を聞き質疑応答、「フィルターベントをはじめあらゆる安全装置が過酷事故の際に機能するかはその条件下になってみないと分からない」という趣旨の電力発言には驚き。11名参加。記者会見。

29日(火) 女川から未来を考える会等2団体、11時、女川原発2号機原子炉起動に抗議するため、県内各地や福島から35名が集まり、女川原発ゲート前で申入れ行動。東北電力、ゲート前での受け取りを拒否、その場で「申入書」を読み上げ再稼働中止を求めた。原発が見える小屋取浜に移動、抗議のシュプレヒコール。

有志ら延べ20名、午前と午後、東北電力本店前で抗議のスタンディング。16時、みやぎアクション等3団体、本店前で抗議行動後、抗議声明『東北電力は女川原発2号機の原子炉起動を中止せよ！』を1階ロビーで提出。福島からも参加があり、50名を超える県民・市民が、再稼働の中止を求めた。

東北電力、29日午後7時、燃料集集体560本が収められた炉心から制御棒137本を段階的に引き抜き、30日午前0時12分に「臨界」状態に達したと発表。

【11月】

1日(金) 山形・幸せの脱原発ウオーキング、山形県庁で記者会見、31日に吉村山形県知事から「原発は安全性の最優先が大前提」とする回答を得たと公表、女川2号機再稼働中止を訴えた。

2日(土) さようなら原発みやぎ実行委、動かすな！女川原発11.2全国集会、協賛：さようなら原発1000万人アクション、仙台市花京院緑地公園。発言：武藤類子さん(1000万人アクション世話人)、中道雅史さん(核燃料廃棄物搬入阻止実行委事務局長)、赤間紀史さん(岩手)。東北電力本店前をデモ行進。雨の中、400名参加。

東北電力、女川2号機の発電と送電を3日に開始すると発表。1日午後8時46分にタービンを起動。

3日(日) 東北電力、女川2号機の機器トラブルで原子炉停止を発表。原子炉内にある「中性子検出器」を校正する「移動式炉心内計装系(TIP)」4個を「案内管」にケーブルで送り込む作業中、1個が動かなくなり手動で引き抜いた。4日、午前2時制御棒挿入。13年7ヶ月ぶりの再稼働5日半で原子炉停止。

5日(火) みやぎアクション等3団体、東北電力に「集会宣言(抗議声明)」と「移動式炉心内計装系(TIP)のトラブルについての質問書」を提出し再稼働中止を要請。本店前で抗議のシュプレヒコール、60名参加。

9日(土) みんなの放射線測定室「てとと」13周年イベント、講演会と安定ヨウ素剤配布会—放射能って何？どこがどう危ないの？—、「次の原発事故が起きた時に大切なひとを守るために」講師：牛山元三さん(3.11甲状腺がん子ども基金顧問)、大河原中央公民館会議室。30名参加。

11日(月) 東北電力、移動式炉心内計装系の検出器(TIP)の事故原因について、機器を原子炉内に送り込む「案内管」の接続部のナットの締め付け不足で、ナットが緩み原子炉格納容器内の案内管が外れたと発表。

12日(火) 東北電力、「229ヶ所のナットの点検が終了した」として13日の再起動を発表。13日9時に再々起動に踏み切り、昼11時55分「臨界」。さらに、15日午後6時、発電再開(再稼働)を強行。

13日(水) みやぎアクション等3団体、機器トラブルで停止した女川原発2号機を拙速にも再起動した東北電力に対し、本店前で50名の市民が「女川原発再稼働するな!」とシュプレヒコールを叩きつけた後、その熱気を帯びた代表団7名が1階会議室で抗議文を読み上げ提出。

14日(木) 仙台地裁、「やくらいゴルフ倶楽部」の土地・建物転売問題、カナディアン・ソーラー(本社カナダ)子会社CS宮城加美町(東京)の所有権確認訴訟第1回口頭弁論、加美町側の返還訴訟と併合審理に。

15日(金) 「女川原発再稼働ストップ!みやぎ女性議員有志の会」、「再稼働はあり得ない」と県議会議事堂1階応接室で集会。県議や仙台市議、元女川町議等14名参加。

新日本婦人の会宮城県本部、「原発から再生可能エネルギーへの転換へ～実践と未来」講師:水戸部秀利氏(NPOきらきら発電・市民共同発電所理事長)、エル・パーク仙台6Fスタジオホール、60名参加。

23日(土) 女川町阿部律子町議と高野晃町議、「使用済み核燃料の乾式貯蔵計画についてのアンケート」配布行動、女川町内2200世帯に配布。7名参加。

27日(水) 女川原発再稼働差止訴訟控訴審「控訴棄却」判決。仙台高裁第3民事部(倉澤守春裁判長)101号法廷、140名参加。報告集会、仙台弁護士会館4階。女川原発再稼働差止訴訟原告団・弁護士、「声明文」発表。12/2、苦渋の選択で、上告及び上告受理の申立をしないことを決定。

東北電力、2024年度第2四半期の原子力規制検査の評価結果を公表。「指摘事項」、重要度「緑」。深刻度SL IV(通知なし)。女川原発2号機、8月15日に実施した大規模損壊訓練および8月20日～22日のシーケンス訓練において、大容量送水ポンプの送水用ホースの接続失敗が指摘され、改善措置が求められた。

29日(金) 「子ども脱被ばく裁判」、最高裁が「棄却」決定。12月4日「抗議声明」。

30日(土) 女川原発UPZ住民の会と原発を考える登米市民の会、「どうすれば原発を止められるか」高野さん講演学習会、登米市中央公民館視聴覚室。29名参加。

【12月】

4日(水) 東北電力、予定していた女川2号機の原子炉再起動(11/24から「中間停止」)を「確認作業に時間がかかった」として延期。5日午前6時再起動、午前9時19分「臨界」。7日、発電再開。

5日(木) 「脱原発をめざす宮城県議の会」学習会、県議会庁舎1F議員応接室。女川原発再稼働差止訴訟原告団長原さんと日野さんが、裁判支援の御礼を伝え、判決結果とその内容について説明。

10日(火) UPZ住民の会、10/29付「折込チラシの内容に関する質問」に対する東北電力からの回答、涌谷町公民館。本店原子力部等6名、口頭のみで文書回答なし。20名参加。

13日(金) みやぎアクション、県連絡センター、11/5提出「移動式炉心内計装系(TIP)のトラブルについての質問書」への東北電力「回答の場」。ナットの締め付け不足で表面化したトルク管理のこと等を質問。9/30面談の際に時間が足りなかった「防潮堤問題に関する再質問書」について、12/6付回答メールが木で鼻をくくったような回答で、土木部の対応が非常に悪いので抗議し再度質問。7名参加。県政記者会で記者会見。

14日(土) 女川原発再稼働ストップの会、避難計画の説明会、講師:町防災管財課和泉氏、町農村環境改善センター、20名参加。

みやぎ地域・市民電力連絡会2024年度年会、基調講演「地産地消のエネルギー」新妻弘明氏(東北大学名誉教授)、日立システムズホール仙台エッグホール、オンライン参加含め41名参加。

15日(日) 放射能から子どもを守るふるかわ連絡会、元福井地裁裁判長樋口英明さん講演会『地震と原発～本当は誰でも分かる原発訴訟』、後援:大崎タイムス社、パレットおおさき/多目的ホール。約250名参加。

17日(火) あさこはうすのあっこさんを囲む会、石巻市蛇田公民館、約40名参加。実行委。

20日(金) 気仙沼の森と海を守る会、東急不動産(東京)の風力発電事業計画中止の要望書と反対署名8529筆を菅原茂市長に提出。

23日(月) 女川原発から30km圏内5市町の首長ら、「UPZ関係自治体首長会議」を廃止、新たに「女川原発UPZ関係自治体協議会」を設立。県に対して、核燃料税の交付金の増額を求めているとしている。

26日(木) みやぎアクション、「女川原発の営業運転開始を許すな!」抗議行動。師走のせわしない中にもかかわらず、16時からの東北電力本店前のスタンディングは30名、17時からの元鍛冶丁公園の集会・アピール行進には約60名が参加。様々な旗が立ち並ぶなか、師走の一番町を「営業運転許さない!」と力強く訴え。

東北電力、女川2号機の「総合負荷性能検査」を終え、16時、規制委員会から「使用前確認証」を交付され、営業運転再開。

●汚染廃棄物「焼却」をめぐる動き

【2024年1月】

- 12日(金) 放射能汚染廃棄物焼却反対宮城県民連絡会、県環境生活部放射性物質汚染廃棄物対策室へ、村井県知事宛「放射能汚染物質の県外焼却中止を求める要望書」を提出、記者会見。5名参加。
- 17日(水) 美里町、町議会全員協議会で、汚染ほだ木と牧草の県外での焼却処理が終了したと報告。
- 25日(木) 放射能汚染廃棄物の焼却差止め大崎住民訴訟控訴審第1回口頭弁論、仙台高裁第2民事部101号法廷、即日結審。小林久起裁判長、専門家証人の証人尋問が認めなかったが、一審判決の判断枠組みとは異なる判断枠組みで総合考慮する旨の発言。4月20日に小林裁判長が急逝。7/16第2回、「弁論更新」、見米正新裁判長、証人尋問や調査囑託を却下し「結審」。60名参加。弁護団の論戦健闘に拍手。

【3月】

- 2日(土) 大崎耕土を放射能汚染させない連絡会、総会記念講演「原発と地震～基準地震動、志賀原発の現状から女川原発再稼働を問う」講師：上澤千尋さん(原子力資料情報室)、古川教育会館、64名参加。
- 27日(水) 大崎連絡会、大崎市に詳細モニタリング記録等開示請求。4/10、2文書墨塗の部分開示等。

【4月】

- 26日(金) 加美町、4月11日付「8000ベクレル以下の放射性汚染廃棄物の県外焼却について加美町が県から事業者の紹介を受けた時の資料」の開示請求に対し、全面墨塗した部分開示決定通知書。

【5月】

- 11日(土) 大崎連絡会、学習会『放射能汚染廃棄物の”県外焼却”を考える』講師(話題提供)：芳川良一氏(連絡会事務局長)、パレットおおさき研修室(大崎生涯学習センター)。52名参加。
- 15日(水) 県民連絡会、加美町田代放牧場の「放射能汚染廃棄物」の保管状況の監視活動を実施。8名参加。6/13、大崎連絡会、第二回目、6名参加。10/22第三回目視察・監視行動。研究者含め5名参加。
- 23日(木) 三陸の海を放射能から守る岩手の会、岩手県知事へ、福島原発事故時に宮城県下で発生した放射性汚染廃棄物を宮城県外で焼却処分するとの情報があるが、実施あるいは計画の有無についての質問書を提出。

【6月】

- 7日(金) 大崎市、県外焼却に関する文書開示(68枚)。「環境モニタリング報告」は杜撰なまま。

【7月】

- 22日(月) 仙南地域広域行政事務組合、放射能廃棄物の焼却に反対する仙南の会『「農林業系放射能廃棄物焼却処理」の終了にあたっての申し入れ』(2024年5月13日付)に、「農林業廃棄物の焼却については令和6年5月16日ですべて終了し、今後、焼却を行うことはありません」と回答。総焼却量は約4800ト。ン。
- 24日(水) 大崎連絡会、大崎市議会総務常任委員会で第1回の意見交換会、総務常任委員5人が参加。
- 26日(金) 県民連絡会、県放射性物質汚染廃棄物対策室と開示文書(加美町県外焼却の件)について面談。

【8月】

- 27日(火) NPO市民放射能監視センター(ちくりん舎)、汚染対処特措法オンライン学習会。大崎市住民訴訟における準備書面(特措法批判)の説明：小野寺弁護士、「放射能拡散に反対する会」から特措法の問題点の説明：大坂恵里さん(東洋大学法学部法律学科教授)、質疑。31名参加。

【9月】

- 13日(金) 大崎連絡会、大崎市と面談。8月14日付大崎市長への再要求、再質問に文書回答。

【10月】

- 25日(金) 大崎連絡会、9月30日付け市長宛「要望と質問」に対し、文書回答と所管課面談。市長に向けた県外焼却の道義的責任については今回も言及はなく、市の発注者責任についての明快な回答はなし。県放対室、9月27日「要望と質問並びに要望」に回答。回答書は実に形式的で不誠実なもので、併せて要望した面談にも「面談お断り」と拒否。

【11月】

- 22日(金) 大崎連絡会、大崎市長宛要望への回答についての面談。県外焼却は県の主導がますますはっきりした、搬出先は、県内に放射性廃棄物を抱えた県であることが判明。

【12月】

- 25日(水) 大崎住民訴訟控訴審、棄却判決。報告集会、仙台市戦災復興記念館会議室、弁護団、原告団、支援70名参加。1/6日、上告方針を確認。8日、原告99名で上告。9日、弁護団が記者会見。